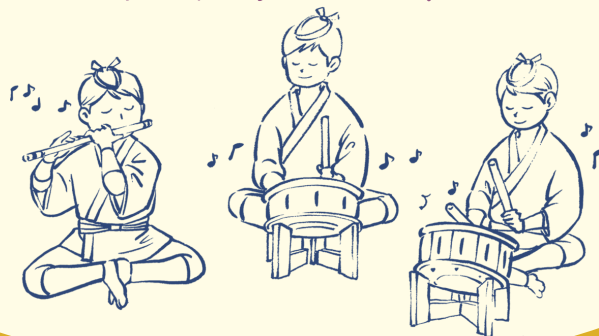


第12回

さいたま

伝統芸能普及 フェスティバル



11/23
[日]

先人たちが残してくれた「想い」

伝統芸能あるところに昔ながらのコミュニティがあり、
先人たちが人と人と「絆」を深めるために伝統芸能は地域を活性化してきました。
そんな先人たちの「想い」を見直してみませんか。
伝統芸能に親しむ秋をどうぞお楽しみください。
なお、各団体とも一緒に伝統を継承していくメンバーを募集しております。

出演団体



もとぶと
本太囃子会



まちや
町谷囃子連



はらやま
原山囃子連



こまた
駒形囃子保存会



きざき
木崎囃子会



うらわ
浦和木遣保存会



うちや
内谷囃子連

公演概要

会場 プラザイースト ホール
開演 13:00 (開場12:30)
入場 無料・自由

お問い合わせ

(公財) さいたま市文化振興事業団 プラザイースト
TEL: 048-875-9933

さい
いた
たま
市に
伝
わ
る
伝
統
芸
能
の
紹
介
・
実
演

内谷囃子連（うちやはやしれん）

起源については多くの説を持つ。一説には江戸時代に内谷では、すでに囃子があったという。また、元々依頼先は不明だが、よその地区に頼んで囃子を出していたともいい、明治の初めごろ、白子地区の人により始められたとの言い伝えもある。鉦が文化期のものと考えられることから、「内谷村若者中 西村和泉之守作」の刻銘のある鉦が伝わっている。作者としてある西村和泉之守は、内谷の一条院の金剛盤（文化7年・市指定文化財）の刻銘にもある。白子から伝わった囃子は復活したものという考えもある。また復活した囃子は、赤塚（板橋区）から伝わったとも言われる。内谷からよそへ教えたことはない。

昭和の初め頃までは、東京に叩きに出かけた。調神社の祭り、蕨神社の祭りでも頼まれて演奏した。
埼玉県民俗芸能調査報告書第13集 埼玉の祭り囃子Ⅶ（北足立地方編2）より抜粋

浦和木遣保存会（うらわきやりほぞんかい）

市指定無形文化財

木遣は、木材や石材を大勢で運搬、移動させるとき等に使われた「労働歌」の一種で、江戸時代に町火消しが組織されてから江戸の鳶職によって発展し、昭和30年代までは「木遣地形」（木遣に合わせて、蛸と呼ばれる木製の巨大な地突き棒によって、地面を締め固めた）に、たびたび使われていました。歴史的には労働の際に使われなくなってきた木遣を残そうと、「木遣講」「浦和鳶組合木遣保存会」を経て、昭和41年(1966)に初代会長内田善造氏を中心とした浦和市内の鳶職によって「浦和木遣保存会」が結成された。

昭和49年(1974)4月に浦和市(現さいたま市)の無形文化財指定、平成23年(2011)11月埼玉県より文化ともしび賞の受賞。

木崎囃子会（きざきはやしかい）

むかし木崎のお祭りといえば、4月4日の獅子祭りや、農家のお庭で開かれる盆踊りが中心でした。「子供から大人まで楽しめる夏祭りを開きたい」——その思いから昭和61年（1986年）、仲間が集まって木崎囃子会を発足、御室神社で屋台を出しながらお囃子を演奏する夏祭りを催したのが始まりです。

平成10年（1998年）からは和太鼓の演奏も加わり、この地域では珍しい“お囃子と和太鼓の二刀流”で活動を展開し、地元・木崎の催事を中心に、神田祭や市・県内外の行事にも参加しています。

演奏のほかにも、大黒舞・巫女舞・獅子舞・おかめひょっとこ踊りなど、舞や踊りの伝統芸能も受け継ぎながら、地域の皆さまと集う場を華やかに彩る活動をしています。

次の舞台は御室神社での「元旦奉納太鼓」。よろしければ、新しい年の響きを感じにいらして下さい。

駒形囃子保存会（こまがたはやしほぞんかい）

市指定無形民俗文化財

駒形の祭囃子は発祥や伝承などの記述がなくはつきりしませんが、調査報告書(昭和49年度に浦和市教育委員会が行った調査の報告書)によると、駒形の祭囃子は、「江戸系統の祭囃子であるが、「下町囃子」を基調として、これに各地の囃子の特徴を採りこみ、工夫を加えて独特のものとした」ものであり、160年ほど前(嘉永年間1848～1853)に始まったと伝えられています。そんな中で確実に分かっているのが1905年生まれの方が「子供の時には存在していて二十歳の時に年配者に習った」と言っていたので120年以上前には今の形で伝承されていたこととなります。これだけ古くからのものでありながら近隣町村どころか埼玉県内、都内の囃子を聴いても、駒形囃子と同じものを聞いた事はありませんので、何処から伝わってきたのかかわかっていません。

原山囃子連（はらやまはやしれん）

原山祭りでは、樽神輿や持ち回りの神輿を担いで、樽を叩き、夏祭りを行っておりました。

昭和30年代に子供神輿を購入し、その後曳き太鼓、大人神輿と購入していきました。

昭和60年頃に地元有志で囃子連を設立し、江戸里神楽・岡田社中の4代目岡田民五郎氏に師事をしてお祭りでの囃子演奏を行って参りました。現在では師から独立をして後進の育成に力を入れております。

毎年原山小学校での体験教室開催や7月に浦和祭り・大在家八雲社の宵宮での奉奏、8月の原山祭りと大在家納涼祭、11月に老人介護施設慰問、12月・1月は地元での獅子舞練り歩きなど地域を盛り上げるため精進しています。現在の子ども会員は15名、大人会員は5名です。

お稽古は通年で、毎月第2、4火曜日及び第2、4日曜日に行っております。

町谷囃子連（まちやはやしれん）

町谷のお囃子には諸説ありますが江戸時代の文献に土合の囃子方の存在が書かれています。町谷在住の人が多かったという事から町谷は芸達者が多いと言われてきました旧浦和市内に展開された八町囃子でも、その芸達者の力を発揮しています。

現在は、八町囃子をしっかりと後世に残すべく活動をしており、構成員50名を超す大所帯になってます。

地域外にも出向く事が増えてきました。

また、お囃子だけではなく町谷地区のイベントの企画運営など若い力はすくすくと育ってくれて、頼もしい限りです。

練習は、毎週日曜日18時30分から町谷自治会館にて行っています。見学自由となっておりますのでお気軽にお越しください。

本太囃子会（もとぶとはやしかい）

本太地区では、江戸時代末期の慶応元年に本太囃子連が発足した記録があります。昭和30年代に一旦途絶えましたが、人と道具は連綿として続いておりました。昭和47年1月に地元祭礼の復活に先立ち、大戸の岡田民五郎師匠・町谷の井原新助師匠の指導のもと、近隣の囃子連と八町睦を結成し、毎年発表会を開催していましたが、今後はその復活を目指すとともに「さいたま伝統芸能普及フェスティバル」を通じて、切磋琢磨してスキルアップを図りたいと思います。

